

商工会議所ニュース



商工会議所は、明治11(1878)年に、商工業者の意見を集約し、政府に建議要望等を行う機関として初めて東京に創設され、以後、現在までに全国514カ所に設立されている、あらゆる業種・業態の商工業者からなる「地域総合経済団体」です。

かわら版

商工会議所数: 514
総会員数: 125万会員

◆竹下復興大臣へ要望書を提出

東日本大震災からの本格復興に向けて 集中復興期間の延長を要望



竹下復興大臣に要望書を手渡す三村会頭(左)

日本商工会議所は3月6日、東北六県商工会議所連合会の鎌田宏会長(仙台・会頭)、山崎長也会頭(岩手県・釜石)、菅原昭彦会頭(宮城県・気仙沼)、小野栄重会頭(福島県・いわき)らとともに、復興庁

に竹下亘復興大臣を訪ね、本格復興に向けた要望書「東日本大震災からの本格復興に向けて～4年間の検証と次の6年およびその先を見据えた対応を」を提出。2015年度までとしている「集中復興期間」の延長または同等の支援の継続を要望した。

三村会頭は、被災地商工会議所の声を集めた日商の要望書の内容に触れ、「まだ復興は終わっていない」と強調。依然として山積している課題について「一つ一つ解決して欲しい」と述べ、竹下大臣のリーダーシップへの強い期待を表明した。

竹下大臣は、商工会議所による復興支援に感謝の意を示すとともに、「地域経済が活性化しなければ復興はない。そのうえで、自立が必要。」と述べた。

被災地商工会議所の各会頭からは、「区画整理や集団移転などの遅れ」、「原発事故の風評被害への具体策の実行」、「交流人口の落ち込み」、「人手不足」、「資材価格の高騰」、「商業再生・まちづくりへの支援」、「原発事故による営業損害の賠償の確実な実施」などへの対応加速を要望し、国の継続支援を強く求めた。

◆自由民主党首脳との懇談会

中小企業の成長後押しを 実行力に期待表明



あいさつする三村会頭

日本商工会議所は2月19日、東京で、「自由民主党首脳と日本商工会議所正副会頭との懇談会」を開催した。日商からは、三村会頭はじめ、佐藤副会頭(大阪・会頭)、岡谷副会頭(名古屋・会頭)、立石副会頭(京都・会頭)、高向副会頭(札幌・会頭)、竹崎副会頭

(高松・会頭)、鎌田副会頭(仙台・会頭)、末吉副会頭(福岡・会頭)、福田副会頭(新潟・会頭)ら12人が出席。自民党からは高村副総裁、谷垣幹事長、二階総務会長、稲田政務調査会長をはじめ、10人が出席して意見交換を行った。

三村会頭は、わが国の重要政策課題のうち、特に、人口減少・少子化対策や地方創生、原発の再稼働を含むエネルギー政策、規制改革、TPPをはじめとする経済連携強化などに触れ、「安定政権下でこそ、痛みを伴う政策を断行することが可能」と述べ、その実行を強く求めた。

一方、自民党の高村副総裁は、「中小企業にも景気回復の波を届けていくことが重要」と指摘。地域・企業の成長に向けた環境整備に取り組む考えを示した。

また、谷垣幹事長は、地方創生について、「今通常国会でさまざまな施策を打ち出している。商工会議所の協力をお願いしたい」と強調した。



あいさつする高村副総裁

◆日本YEG第34回全国大会 京都大会

過去最高6244人が参加「日本の底力を上げる原動力に」



記念式典であいさつする三村会頭

日本商工会議所青年部(仲田憲仁会長)は2月19～22日の4日間、京都府内各所で「第34回全国大会京都大会」を開催した。21日に「みやこめっせ」(京都市)で行われた記念式典には、日本商工会議所の三村明夫会頭、関総一郎近畿経済産業局長、山田啓二京都府知事、門川大作京都市長らが出席。全国から過去最高の6224人の青年部メンバーらが集結し、交流した。

全国大会は、全国各地の青年経済人が、次代への先導者としての意識の高揚を図ることなどを目的に、毎年開催している。記念式典の冒頭にあいさつした仲田会長(那覇YEG)は、わが国を取り巻く諸問題について「YEGがさまざまな問題に向き合い、解決策を考え、そして実際に行動することで地域が活力を取り戻し、日本の再生に重要な役割を果たす」と指摘。「人が動き、つながれば、力に変わる。自信を持って地域課題に立ち向かおう」と力強く呼び掛けた。

続いてあいさつした三村会頭は、日商として、地方創生、人口減少対策を大きな政策課題として捉えていると述べ、「次代を担う青年部への期待・役割も、ますます大きくなっている。これまで以上に、その創造性あふれる行動力を発揮し、地域から日本の底力を上げる大きな原動力となってほしい」と呼び掛けた。

大会では、府内6カ所で7つの分科会を開催したほか、ビジネス事業、交流事業、家族事業、物産展、大懇親会なども実施。今年で12回目を迎えたビジネスプランコンテストでは、常滑YEG(愛知県)の榊原裕高氏が、高性能冷蔵庫を活用した「氷感6次化物流システム」でグランプリ(日商会頭賞)を受賞した。

◆京都8商工会議所との懇談会

「地方創生」をテーマに意見交換



京都府内会頭と意見を交わす三村会頭(右)

三村明夫会頭は2月20日、京都市内のホテルで、京都府内の8商工会議所の会頭と「地方創生」をテーマに意見交換した。

日商側は、三村会頭はじめ、中村専務理事、久貝常務理事、青山理事・事務局長ら7人が出席。京都側は、立石会頭(京都)、谷村会頭(福知山)、山本会頭(宇治)、廣瀬会頭(舞鶴)、塩田会頭(綾部)、今井会頭(宮津)、渡辺会頭(亀岡)、森本会頭(城陽)らが出席した。

立石会頭は、「京都府は、北部の『海の京都』、中部の『森の京都』、南部の『お茶の京都』に分かれ、それぞれの魅力を活用して、地方創生に取り組んでいる」と述べた。

続いて、三村会頭は、「政府の『選択する未来』委員会(委員長・三村会頭)で人口減少問題を提起して以来、全国各地で健全な危機意識を持って地方創生に取り組む機運が高まっている中、さらに商工会議所の役割が大きくなる」と述べた。

懇談では、京都側から、各地域における地方創生に向け、ビジョンの策定、地域資源を活用した観光振興やプレミアム商品券事業、高速道路整備と企業誘致、中小・小規模企業支援や海外展開支援、外国人労働者の活用等の取り組みについて、意見発表があった。

最後に三村会頭は、「各地域で商工会議所が信頼され、行政と連携しながら、地方創生に向けて精力的に取り組んでいることを心強く思う」と述べた。

(お問い合わせ先)

商工会議所は、地域の商工業者の応援団です。